

礼拝さいこう

巻頭言

今この時！「礼拝と賛美」の研修の重要性を感じて

木村まどか（大泉バプテスト教会・教会音楽専門委員）

みなさまの教会では、礼拝とその賛美をどのように準備し整えられていますか？私の所属する教会では行事や賛美歌を確認し、また礼拝で気付いたことなどを出し合う「音楽委員会」を毎月開いています。牧師と奏楽者の数人ということもありましたが、ずっと礼拝を考え続けてきました。そして奉仕者を覚え祈り合います。このような取り組みは礼拝参加人数の規模に関わらず、大切にしていきたい働きではないでしょうか。その中で、心を合わせて共に主を賛美したいとの願いから、もっと賛美歌を身近に感じていただけるようにその月の賛美歌（プレイズ）の紹介やその賛美歌に纏わる証し等を載せた「音楽委員会便り『さんびかによせて』」を発行しています。

「教会音楽専門委員会議」も連盟という協力伝道を担い合う諸教会の礼拝を考える委員会です。「礼拝室」と改めては？という意見が出るほどです。ニュースレターも昨年より「礼拝さいこう」にリニューアル。「さいこう」には「再考」「再興」「最高」そして「さあ行こう！」まで深い意味が詰まっています。

江原室長より、「現場の声を届けてください」との依頼を受けてこの委員会に出席するようになって3年目。会議においては、それぞれの教会の礼拝の課題や、悩みを分かち合いながら豊かな礼拝を捧げるためにどのようにしたらよいか考えます。委員は私以外、牧師先生や音楽主事の方々と、音楽よりむしろ「詞（ことば）」（天皇制用語や不快語、現代の宣教課題と神学）についてやどのような研修会が今必要とされているのかが話し合われます。自分の学びの足りなさを思われ、神学校の授業を聴講、超教派の音楽祭や研修会にも積極的に参加するようになりました。そんな時思い出すのは、私がオルガン奏楽を始めたばかりの30年以上も前、教会から送り出されていた「キリスト教音楽講習会」です。「♪こころを高くあげよう～」と力強く歌った会衆賛美が印象的で、奉仕を同じくする仲間がこんなにいる！と励まされたものです。連盟の各地で開催されている「礼拝音楽研修会」でも、そんな励ましを与えられたらと願っています。

11月に行われる定期総会の議案書（p 44, 45）には、2015年度からの宣教部の変更図・案が示され、「教会音楽室」の働きを縮小し「伝道推進室」の働きの中に組み込まれる提案がなされています。このことが、「礼拝」「賛美」を考える機会となりますように。そして、これまで推進してきた連盟の「教会音楽」の働きが継承されつつ、各教会の礼拝や伝道が豊かにされますように切に祈ります。

奏楽者養成プロジェクト

「賛美を豊かに ～奏楽者育成から賛美歌歌唱の工夫まで～」

全国の諸教会・伝道所の礼拝の賛美が豊かに捧げられるために、これまで教会音楽室では様々な角度からの支援を継続しています。

また、次ページより3つの奏楽に関する働きをご紹介します。

奏楽者がいない！

新生讃美歌伴奏CDROM・
やさしい楽譜紹介

奏楽者が1人、
これから育成したい

奏楽者講習会、やさしい楽譜紹介

アレンジを
学びたい

奏楽者研修 礼拝音楽研修会

ピアノ、オルガン
だけでなく いろ
いろな工夫ができ
ないか？

技術研修
礼拝音楽研修会
ニュースレター

新生讃美歌を曲の
背景知りたい

新生讃美歌ハンドブック
新生讃美歌ニュースレター
による曲紹介、
インターネット活用法紹介

奏楽者研修会企画

礼拝音楽研修会技術研修
奏楽者講習会、講師派遣制度

講師紹介

教会音楽室へ個別相談、対応

著作権申請

教会音楽室へ問い合わせ

奏楽者派遣要請

教会音楽室へ問い合わせ

礼拝の中での奏楽者の
役割の学びの必要性

礼拝音楽研修会

礼拝の賛美を整えるためには、

実に様々な準備と研修、学びが必要です。

学ぶ機会として、この他、東京バプテスト神学校の「教会音楽概論」「賛美歌学」の授業をインターネットで受講することもできます。03(3947)5141、seminary@tbts.jp

①奏楽者講習会

2014年度より地域、連合のブロック単位での奏楽者講習会をはじめました。連盟宣教部から講師を派遣し、研修の機会を提供していくものです。第1回目として、9月13日（土）に神戸教会で兵庫ブロック、ピアノ奏楽者講習会が開催され、講師は江原美歌子室長、参加者12名の中には高校生の顔もあり嬉しい学びあいとなりました。以下、参加者の声として2人の方から感想をいただきました。

* 地域ブロック単位で奏楽者講習（ピアノ、オルガン、リードオルガン、ギター）の要望がありましたら遠慮なくご連絡ください。具体的に計画していきます。ehara@bapren.jp

「喜びを献げる」

姫路城西キリスト教会 神吉智子

9月13日、神戸教会で江原美歌子先生によるピアノ奏楽者講習会に参加しました。

姫路城西から参加した小西姉と私はとても緊張していましたが、初めてお会いする江原先生のお優しい空気に包まれて、皆さんの前で練習してきた曲を弾くことが出来ました（新生43「主をたたえよ」）。

先生から「礼拝の奏楽の働き」の根幹の教えを受けて、研修を受ける迄に感じていたことが明確にされ、心が引き締められました。訳も分からずに奏楽をしていた時は、礼拝堂におられる聖霊様と少しでも交わるよう心を静めて奏楽をし、会衆の皆さんと神様に賛美を献げることが問われていると感じていました。このことは私には難しく、ともすると気が散ってしまいます。しかし講習を受けて、ぼんやりと思っていたことが多岐にわたって、しかも具体的に理解できました。礼拝の奏楽前にははっきりとした言葉でお祈りをする事が出来るようになりました。（日々、主による訓練です）

2011年にバプテスマを与ってから、新生讃美歌682曲のうち弾ける曲が1/4程です。レパートリーを増やして兄弟姉妹と共に神様に喜びをお献げする奏楽者に成長していきたいと、祈っています。まだ未熟な私ですが、この恵みの時を与え下さり感謝します。

「ピアノ奏楽者講習会に始めて参加して」

北山バプテスト教会 木原 菜穂美（高校1年生）

私は、中学校1年生の時から奏楽の奉仕をさせていただいています。奏楽についての知識はあまり持っていなかったもので、いつかしっかり学ばなければと思っていました。

今回参加させていただき、様々な演奏方法や他教会の奏楽の課題などを知ることができました。実際に他の奏楽者に自分の奏楽を聞いてもらったりして、お互いにアドバイスを言い合うなど、他教会の奏楽者と交わりを深めることができました。先生のアドバイスはとても分かりやすく、奏楽に対する姿勢から教えていただきました。奏楽についてより深く学ぶ機会を与えてくださったことを、とても感謝しています。

私は、講習会で学んだことを教会全体で共有したいと思いました。そして、常会で提案をして、北山教会では個人の愛唱歌を共有し、その賛美歌について学ぶ機会を設けることとなりました。私は、教会が一つとなり賛美歌に愛をこめて歌うことができればと思っていますそして、いつかは全員が自信を持って大きな声で歌える教会になってほしいと願っています。

②奏でてみよう新生讃美歌

第10回全国礼拝音楽研修会では、「奏でてみよう新生讃美歌」で賛美歌歌唱の工夫を坂本献氏よりリードしていただきました。9月に配布した報告書では1ページのみの紹介でしたので、具体的な曲取り組みの紹介などご案内いたします。「伴奏」についてとてもよい示唆が与えられます。ご参考ください。

『新生讃美歌』を工夫して歌ってみませんか？

所沢キリスト教会 坂本 献

『新生讃美歌』682曲にある豊かな信仰や表情を味わいながら、豊かな信仰や表情を持つ教会の仲間と一緒に賛美すること、そして、その賛美が世界に広がっていくことを願っています。しかし、そう願いつつも、教会や伝道所で奏楽者がいない、聖歌隊といってもメンバーが少ない、どのように歌っているのかわからない、いろんな声を聞きます。そのような声に少しでもお応えしたく、ここでは、ピアノやオルガンを使用しない演奏や、伴奏の工夫など、ご一緒に考えていきましょう。

【奏楽者がいる場合でも…】

奏楽者がいる、楽器がある場合でも、キャンプや家庭集会、などでは楽器がない場合もあります。また、いつもとは異なる伴奏での賛美歌伴奏のアプローチはいろいろな応用があるかもしれません。そして3・11以降、電気がなければオルガンも使用できないという事態も発生することを念頭に置いて電気がなくても礼拝できる取組も大事かもしれません（今、再びリードオルガンが見直されていることにもつながります。そこには自然の空気を送って音を出すということでの音の柔らかさが良いということもあります）。

【具体的な伴奏の工夫のヒントとして】

『新生讃美歌』の特徴として英語圏以外の讃美歌も入っている＝多様な楽器の可能性、アジアや南米の讃美歌は音階や和声、伴奏など従来の英語圏で想定されてきたものと根本的に違うので、従来の伴奏では不具合が生じます。つまりオルガンの伴奏は合わないものがあるのです。しかし、それを逆に生かしてあえて通常使用されていた楽器や伴奏形態、歌い方も変化させる必要があるし、オルガンやピアノなどの楽器がない場合にも有効に活用できるのではないのでしょうか。

世界的に見れば、教会にオルガンやピアノがあるのは決して当たり前ではありません。そして「無い」から駄目ではなく、そこに新たな賛美歌が生まれる世界もあります。それは信仰の深さや豊かさを新たな心で受け取っていくことになるのです。

その場合、『新生讃美歌』に紹介されているアジアや南米その他の地域の音楽は「慣れていない」ことが問題になります。そこで大事なのはリズム、テンポの設定やアレンジの方法、歌い方であり、この点については今後も学んでいく必要があります。

そのような新しい音楽を学びながら、その手法を生かして従来の伝統的賛美歌もより広いアプローチで取り組むことができる（＝楽器などがなくても共に会衆がつくっていく賛美歌）のと思います。

ただ、この課題には多くのジレンマがあります。つまり、そのように新しい曲を紹介し、礼拝の賛美歌として含めていく場合、ある程度の音楽的素養をもった人がいなければ難しい、しかし、そのような音楽的素養を持った人がいればメロディを弾いたり、簡単な伴奏は可能になるという点です。

いずれにせよ、礼拝を形づくる教会において、祈り、待望しながら心込めて礼拝を考えていくときに、主なる神は必ず善き道を備えてくれることを私は確信しています。「主に願い求めよう、主を賛美し、主の道を伝えるために！」

【楽器がない場合は？】

アカペラという言葉があります。無伴奏で、つまり歌唱のみ（より根本的な意味では単旋律）で歌うという指示です。そしてアカペラの意味は「教会風」ということで、そこには神の前に立つ時、ピュアに人間のみが立つという意味もあるし（むしろ楽器をやめた、そこには当時の世界との対抗もある）、小さな教会では楽器が準備できない時もあったことも考えられます。また、教会の建築との関係もあり、楽器では残響が強すぎることも影響したこともあります。ただ、ここで覚えてほしいのはアカペラは、楽器がないのでという「仕方ない」選択肢ではなく、あえて「アカペラ」で賛美歌を歌うことに価値を見出すことなのです。

もうひとつ付け加えれば、西洋音楽の歴史において、現在の音階やハーモニーを完成させたのはバッハであり、キリスト教2千年の歴史の中のわずか300年ほど前です。ピアノも楽器として完成したのはそれより50～100年後であり、量産されるようになったのは1800年代なのです。このことは、当時の社会や文化の変化と共に教会の礼拝や伝道にもおおいに関係があります。そのような意味でも、「奏楽はこうあるべき」ということに固執せずに、柔軟に教会の状況に相応しく対応していければと思うのです。

以下、実際に『新生讃美歌』にある曲で、工夫可能なものをリストアップしてみました。演奏しながら、ぜひ歌い方やテンポ、リズムの特徴を体感しつつ、挑戦してみてください。私も試行錯誤の点もあり、まだいろいろなアイデアがあるわけではありませんので、それぞれの取り組みにより、今後も教会音楽室にいろいろな意見を頂きたいと願っています。

<資料>

実際に新生讃美歌にある曲を演奏しながら、ぜひ歌い方やテンポ、リズムの特徴を把握しながら、ピアノやオルガンがなくてもどう演奏できるのか考えていきましょう。以下、ご参考ください。

17「楽の音は高らかに」… 壮大な曲、楽譜での指定のように、ユニゾンがふさわしい。打楽器の使用が効果的。歌詞には「豎琴」とあるが、豎琴があれば使えば良いし、鉄琴、シンバル、ドラ、その他鳴り物をいろいろもってきて上手に加えると良い。アウフタクト（弱起）で始まるので、一拍目に印象的なシンバルやドラ、太鼓の音を入れると良いでしょう（しかし、美しく）。歌詞はヒム・エクスプロージョンの作家であるフレッド・P・グリーンです。「彼の作風は、巧みに韻を踏む隙のない構文の中で、実に生き生きとした信仰を歌い上げることです。＊」

35「主を賛美しよう」… 簡単なコーラス曲であるが独特で美しい。歌詞を変えて良い。例えばイースターでは「主よみがえられた」の歌詞で。

54「主イエスはすばらしい」… 覚えやすく、誰でも歌いやすいのがこの曲の賜物。

58「主をほめたたえよう」… カノン（輪唱）、アジアの賛美歌集「竹を鳴らせ」より。

68「みさかえ今宵も」… カノン（輪唱） 頌栄が入っている。

98「賛美しよう神を」… インドネシアの賛美歌（打楽器の使用が効果的）。他の曲にも言えることですが、まずその曲を支配している（中心的な）リズムをとらえることが大事です。できればこの賛美歌の生まれた背景やインドネシアでのキリスト教信仰について思い巡らすことが大事です。

120「主をたたえよ カみつる主を」… リコーダーで演奏してみましょうか。

128「われらの神 くすしき主よ」… アカペラで丁寧に歌うことが何より。

152「あがめます主よ」… CCA（クリスチャンカンファレンス・オブ・アジア）1990、スリランカのメ

ソジストの牧師、ナイルズによる。インドネシアのマルク地方に伝わる旋律で、同地では行進を伴う祝祭の音楽として歌われる。打楽器の伴奏が良い＊。ただし、テンポが速くなると歌いにくい。ブレスと歌詞の関係をよく考えること。音楽の流れの中で〈節により〉テンポをゆっくりするのも可。

161「もろびと喜べ」… 音の強弱を丁寧につけてアカペラで歌うと良い印象。わざわざ強弱記号が付してある。「山びこ」パターン。

204「お生まれだ イエスさまが」… 歌詞のようにいろんな楽器を使ってみれば。子どもたちと一緒に喜び歌いましょう。

247「輝きのこの日」… タンバリンなどの打楽器も使える。テンポの扱いとしては新生讃美歌CDがひとつの教材となりますが、音楽の展開の中では最後など少し早めなリズムにしても良いでしょう。復活の喜びが、教会からこの世界にあふれていくような思いで。タンバリンを鳴らす時に、スティック（撥）（なければ太目のさえ箸を逆にもって）で演奏するのも可能です。小太鼓みたいな雰囲気になります。

251「恐れを捨て去り」… アルゼンチンのイースターの讃美歌。作曲はパブロ・ソーサ。打楽器の伴奏が良い。テンポを変化させることは音楽をつくる上で重要。

252「喜べ 主よ」… リコーダーや打楽器を使用するもよし

259「主よおいでください」… アフロ・アメリカン・スピリチャル、アフリカ民謡“Kum ba yah(my Lord)”はサウス・キャロライナ州に住むアフリカ系アメリカ人たちが用いていた「ガラ人の言葉」。これはアフリカの言葉を多く含む英語“Come by here” ＊。単純な曲なのでいろいろな楽器を使ったり、男声や女声などの音域で分けたり、あるいは子どもが歌う部分などアレンジをしてください。歌詞をそれぞれの教会で創作してもよいでしょう。

282「ああ美しい主イエスのみ名」… ワーシップソングは歌詞の内容の中には検討すべきものがあるが、歌いやすさ、親しみやすさ、という賜物を生かすことも大事。どの賛美歌においても「何を伝え」、「どのような教会や礼拝を目指そうとしているのか」を考えていきたいですね。歌詞に応じて（本来は）歌い方もテンポも変わってくるものもあるでしょう。

283「インマヌエル」… これも同上。

395「伝えましょう イエスの救い」… 琉球のメロディでの賛美歌。打楽器伴奏で挑戦してみても？「サンシン」を使えばなお良いが。

433「祈りさびら」… 琉球のメロディ。上記と同じ。

447「天の父」… フィリピン民謡の影響を受けたナイルズの曲、歌詞はセブアノ語で書かれた（エレナ・マキーゾ）。これも打楽器の伴奏はいろいろ考えられる（打楽器は静かな曲ではそれなりの演奏もできます。トライアングルやシンバルを小さく演奏）。あるいはしっとりとしたギターのアルペジオの伴奏なども良い。間奏などでリコーダーを用いるのも良いでしょう。アカペラでもとっても素敵。HALADは「ささげもの」の意味＊。

464「主が来られて 呼んでおられる」… ウェールズ地方の民謡による。この曲は3拍子のリズムを生かすことがポイント。多様な楽器を使ったアレンジもできる。

524「主われを愛す」… 音楽リーダー（あるいは聖歌隊）と会衆のコール&レスポンス、打楽器のみでの伴奏もできる。コール&レスポンスは信仰の形でもあります。

526「主よ わが主よ」… リコーダーで礼拝の前奏（プレリュード）などにも使ってみればよいかも。賛美歌を歌う場合（いや音楽というものは）、「フレージング」に配慮することが大切です。「心を込めた演奏」はどのようにフレーズをつくっていくのかを繊細に考えるところに生まれます。これは朗読でも、交読などでも共通する要素になります。なお、ついでだが、「前奏」と言う時に、「プレリュード」と「イントロダクション」と二つの意味があることは覚えておいてください。

635(A)「わが命をば(A)」… なんと心地良いメロディとリズム。いろいろな会衆賛美のパターンを考える例題にもなる。なお、常に考えるべき点はメロディやハーモニーは「言葉」に奉仕するものであるということです。

662「行きて伝えよ」… “Go, tell it on the mountain.” (spiritual)。スピリチュアル。いろんな楽器も使えるし、手拍子を加えても可(2・4拍)。アカペラでもとっても素敵。リフレインは全員で、「1節は子どもだけで歌う」、などのアレンジも可。テンポも途中で変えてみてほしい。八分音符は「ハネて」リズムを揃えて構いません。

(*)は「日本基督教団出版局『讃美歌21略解』(日本基督教団讃美歌委員会編)、1998(初版)」からの引用です。

(追記)楽譜は記号であり、そこに命を吹き込み、告白となり、共同体の働き、表現としての「賛美」となるのが信仰の業です。同じ曲に見えても賛美歌集によって楽譜の一部が異なるものは沢山あります(メロディ、アレンジなど)。記号優先することで「律法的」にならないようにしなければなりません。

③リードオルガンの悩み、課題に就いて

日本バプテスト連盟には様々な音楽の賜物をもっておられる方がいらっしゃいます。リードオルガンでは、伊藤園子さんが指導者、演奏家としても広く用いられておられ、修理講習会なども開催されています。以下、活動の中からのご報告とご案内です。

「リードオルガン講習会と被災地訪問」

日本バプテストキリスト目白ヶ丘教会 伊藤園子

9月末仙台の教団被災地支援センター“エマオ”で3日間のリードオルガンの簡単な修理・奏法・コンサートの講習会をし、その後、名取教会に移動、被災地の名取を通ってきました。

2011年3月11日天城山荘でのリードオルガン修理講習会の終了間際に被災地の様子がテレビに映し出されました。津波が押し寄せてきた直後の生々しい映像は名取の状況だったと後で知りました。

実際にその地にたってみると、今まで頭で考えてきた感覚と全く違う思いが心にあふれました。高い建物は一切なく塩地に生える低い草だけの地が延々と広がる・・・すべてを失うということはこのような事なのだと・・・知らされました。震災後は電気のないところで、リードオルガンが大いに用いられたと聞いています。

リードオルガンで礼拝をまもっている教会では、ちょっとした不具合・ペダルの踏み方・奏法・等どこに相談したらよいかわからず困っておられたようで、このような講習会を待っていましたととても喜んでいただきました。

毎年天城山荘主催でリードオルガン修理・構造を知っての奏法の講習会が開かれています。

今年で第7回目を迎え、修理をする方々が増えてきました。次回は2015年春(3月頃)開催予定です。詳しくは天城山荘にお問い合わせください。

礼拝の賛美を支えるリードオルガンが良い状態でよい音を響かせますように祈っています。

*リードオルガンのことでお困りのことがあればメールにてご相談お受けいたします。

伊藤園子 sono-ito@aurora.ocn.ne.jp

西九州礼拝音楽研修会報告

連盟の講師派遣制度により地方連合音楽研修会への講師派遣補助を受けることができ、この支援のもと西九州連合主催礼拝音楽研修会が開催されました。以下、講演内容、感想をご紹介します。皆様の地方連合でも、この制度をご活用ください！



講演内容

「ともに賛美をささげる喜び」

2014.2.11 佐賀バプテスト教会

講師：山中臨在（浦和）

賛美歌について

賛美歌を特定するものは、「題名」（初行）と「曲名」がある。

韻律（ミーター）：歌詞の文節の数を表すもの（必ずしも、同じ「文字数」ではない）。

→同じ韻律の賛美歌は、歌詞を交換して歌うことも可能である。

音楽を決める要素

速度、強弱、スタイル（レガート、マルカートなど）、フェルマータ

→これらのことを、無関心（何気なく）ではなく、綿密に計画するところに、豊かさが。

詞の吟味

賛美歌が何を語っているのか、どんなメッセージがあるのか、どんなあかしがあるのかを
しることの大切さ。歌詞の意味をわかって歌っているか？

1 6 4 「羊は眠れり」。1 節の「いなとよ」とは？ 「とよ」とはどういう意味か？

2 9 7 「主によりてあがなわる」。3 番の「いさおし」とは？

2. 著作権（プロジェクターを使ってやっています、という教会多かったが）

楽譜の無断複製は違法。

- ・礼拝、特別集会のために歌集を作る時
- ・礼拝、集会の時、スクリーンに歌詞を映し出す場合
- ・自分で独自に翻訳した外国曲の歌詞のみを映し出す場合
- ・結婚式、葬儀など緊急の集会の場合

原則的には上記の「いついかなる時も」許可が必要。緊急の場合は電話で許諾番号をもらい、それを印刷物に記入。ただし、聖歌の場合は、「結婚式や葬式、献堂式などの時は連絡がいない」。多くの場合使用料はかからないが、そうでないものも。

3. 礼拝の計画

礼拝が神との出会いであるならば、会衆一人一人が今自分はどこにいて、どういうふうに神様と出会っているのかがわかる必要。そのために、ある流れ（あるいはストーリー）が全員にわかっていたほうがよいのでは？ そのための助けとして、音楽を最大限に活用したい。

A：説教は何か？ どこへ向かおうとしているのか？

説教内容に沿った賛美歌。応答の賛美歌だけでなく、その前後、あるいは全曲そうでもいいのでは？ 説教の中で賛美歌を歌うことも。説教者が歌う、ソリストが歌う、聖歌隊が歌う。会衆が歌う。どのパターンでも。

B：教会の会衆はどんな人か？

賛美歌の音程。お年寄りが多い、子供が多いなどに応じて、必要ならキイの上げ下げをすることも（奏楽者は相当な準備が必要）

C：どんな流れ、どんなストーリー？

一つの賛美歌を速度を変えたり、スタイルを変えたりして、ストーリーに合った流れを作ることもできる。

賛美歌が何を語っているのかを会衆一人一人がわかる必要

→リーダーが、これから歌う賛美歌の説明をする、あるいは歌った後で説明する。

あるいは、その賛美歌の書かれた背景などを語ることも効果的。

「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です」（ローマ12:1）

「だから、イエスを通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう」（ヘブライ13:15）。

→わたしたちの最善（ベスト）を主にささげることが礼拝である。

いけにえ：私達の犠牲。会衆賛美の準備には「犠牲」が必要。練習など。

「私の」好みではない賛美歌を歌う→（そこから学ぶ）

4. 会衆賛美の豊かさ

A. 賛美とは？

賛美とは、主をほめたたえること。賛美イコール「歌うこと」ではない。

「主を賛美するために民は創造された」（詩編102:19）賛美することは神の目的。

「すべての国よ、主を賛美せよ。すべての民よ、主をほめたたえよ」（詩編117:1）

（文化や民族、言語、国、世代を超えてのすべての人による賛美）。

「すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです」（フィリピ2:11）

「ラッパ奏者と詠唱者とは声を合わせて主を賛美し、ほめたたえた。そして、ラッパ、シンバルなどの楽器と共に声を張り上げ・・・」（歴代誌下5:13）とある。賛美は歌うことだけではない。楽器を使う賛美もある。いや音楽だけではないのである。詩吟、ドラマ、ダンス、絵画、などいろいろ考えられる。出エジプト15章や詩編149からも「民全体の」賛美である。賛美の中心は会衆賛美なのではないだろうか？

B.豊かさとは？

a) ユニゾンかハーモニーか？ どんなハーモニーか？

賛美歌歌唱では、ルターはハーモニーをつけ、カルヴァンはユニゾン（無伴奏）とした。

音が多くなると豊かになるが、多くても調和がないと豊かではない。

b) 「決められた」ジャンルか、「あらゆる」ジャンルか？

ある特定のジャンルの音楽がふさわしい、という根拠はあるか？

あらゆるジャンルの音楽がふさわしい、という根拠はあるか？

c) オルガンかピアノか？ 他の楽器は？ ドラムはなぜいけないのか？

聖書にはどの楽器が礼拝にふさわしいか書いていない。そもそも聖書が書かれた時代にオルガンもピアノもなかった。むしろドラムはあった。尺八と箏など。

→先程の詩編117やフィリピ2章、「すべての民の」賛美ならば、すべての楽器が賛美の器となるのでは？

み言葉と賛美は、一個人のものではない。一人では知ることのできない豊かな恵みを共同体の中で教えられ、賛美に導かれる。伝統的スタイルの中にある、育まれてきた信仰告白を知り、また若者が置かれている音楽的状况を知り、共に祈り、考えていくことこそが大切である。

スタイルが問題なのではない、我々の好みが問題なのではない。主のみ国の賛美は、きっとありとあらゆる国、民族、年齢、スタイルの賛美歌があることでしょう。それをよしとされる主に栄光を帰すべく賛美する。

感想

「西九州地方連合 教会音楽研修会に参加して」

相浦光キリスト教会 木村 牧子

ハレルヤ！主の御名を賛美します。2月11日、『ともに賛美をささげる喜び（会衆賛美）』というテーマで教会音楽研修会が開催されました。佐賀キリスト教会の会堂いっぱいには賛美の歌声が響きわたりました。西九州地方連合の皆様と共に学び賛美する時が与えられ、感謝と喜びにあふれるひとときでした。

印象に残ったのが講師の山中臨在先生の演歌での賛美です。とても新鮮で、わびさびのあるメロディーと十字架の救いの歌詞がしっくりきて心に染みました。様々なジャンルの音楽や楽器を取り入れての賛美も教会音楽を豊かにしてくれるのではないのでしょうか。

また、会衆賛美は説教や聖書の箇所に合わせて選曲をし、礼拝全体の流れに調和をもたせることが大事だということも改めて学びました。会衆も奏楽者も歌詞の意味をよく理解することでより豊かに賛美することができます。祈りをもって準備していくことの大切さを改めて思われました。

相浦光教会では新年度から新たに3人の奏楽奉仕者が加えられる予定です。感謝！音楽奉仕者に限らず、誘い合わせてどんどんこのような研修会に足を運び、共に学んでいけたらと思います。

『主を賛美せよ』と聖書に何度も出てきます。私たちは神を賛美するものとして創られ、神様は私たちが心から賛美を捧げることを喜んでくださいます。

わたしたちではなく、主よ

わたしたちではなく

あなたの御名こそ、栄え輝きますように

あなたの慈しみとまことによって。（詩編115：1）アーメン。

そのような祈りをもって神様を賛美し続けるものでありたいと思います。

♪クリスマス賛美の紹介♪

クリスマスの準備が始まっているのではないのでしょうか！

「新生讃美歌ハンドブック」では、日本バプテスト連盟オリジナル曲解説をしており、クリスマスの曲も166、180、195番を紹介しています。詞曲の背景や作者の証しに触れることで、親しみをもって歌うことができます。ご活用ください。購入希望のかたは048（883）1091まで。

また、今号の坂本氏による「奏でてみよう新生讃美歌」の中にも『新生讃美歌』152、161、204番の歌い方などアイデアが紹介されています。

この他、聖歌隊楽譜のクリスマス曲も多数取り揃えており（新生讃美歌149、167、183、187、190、193、200、201番）、サンプル楽譜をお送りすることもできます。

179 暗き夜に

Kuraki yo ni (1981) 詞 千野肇 (ちの・はじめ)
KURAKI YO NI (1981) 曲 藤田直彦 (ふじた・なおひこ)
ルカ 2:8-15、ヨハ 1:1-9 [イエス・キリストー降誕、光]

聖句：その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。
ヨハネによる福音書 1章9節

〈テキストからの引用〉

くらきよに み子 生まれたもう ひつじかい みつげをうけぬ
はじめのことば いのちのことば ひかりのことば やみにかがやく (1節より抜粋)

〈作品の背景〉

恵泉教会の教会学校クリスマスページェント・オリジナル台本「イエスさまはどこ？」のテーマ曲として生まれた賛美歌です。2000年にアムハアレツ（恵泉オリジナル賛美グループ）によって作成されたLP「アムハアレツ」（1988年）に収録されています（同作者による248「主はガリラヤへ」、452「主いましたまえ」も収録）。

「時代の闇の中であって、キリストのいのちは、その言葉の中に宿り、現在も輝いています。み子が世に与えられた誕生の物語もキリストの光をあらわすもの。キリストの言葉の中にあるいのち、光を、深い闇の時代にあっても真摯に伝える者でありたいです」（千野肇）。

「クリスマスの歌ですが、クリスマスではない時にも歌われています。言葉がそのまま歌となりました。小さな歌が光となりますように」（藤田直彦）。

〈作者の履歴〉

作詞の千野肇は1954年生まれ。1978年、恵泉教会にて受洗。現在、恵泉教会員。
作曲の藤田直彦は1960年生まれ。1972年、恵泉教会にて受洗。15歳よりギターを始める。恵泉オリジナル賛美グループ、アムハアレツによるLP「アムハアレツ」（1988年）、CD「エバタ」（2000年）作成。年1回の「秋のライブ」や他教会での賛美歌演奏を続けている。

同じ作者の賛美歌

千野肇 248、452
藤田直彦 248、452



教会音楽室からのお知らせ

♪ **子どもも一緒に！ 礼拝を学びあい、賛美をお捧げしましょう！**

第11回全国礼拝音楽研修会 は南九州地方連合の協力により、熊本愛泉教会で開催します。

日 時 : 2015年1月12日(月・成人の日) 10時半から16時まで

参加費 : 1000円(中学生以上)

小学生 500円、託児 300円、昼食代別途500円。

今回は講師が多数九州からたてられ、7つの分科会をご提供できることは喜びです。そして嬉しいお知らせは、子どもを対象とした分科会「キッズプレイズ」が新設されたことです。講師は長崎教会、音楽主事の嘉手苅夏希さんです。体いっぱい、心いっぱい、賛美するプログラムが計画され、今から楽しみです。

熊本で開催されることになった経緯には、九州の教会・伝道所の方々がより参加しやすい場所ということがあります。九州からのたくさんの参加を願っています。子どもたちとともに賛美をもって、共に主を賛美し礼拝する1日としていきたいです。

申し込み締切は12月16日となっております。第2信にある申し込み用紙にてご登録ください。

賛美歌の「学会」！ 楽しい学びの時間をいただいて

去る9月15日(月)に日本キリスト教団広島流川教会にて、日本賛美歌学会第14回大会が開催されました。「学会」と聞くと、学術的で難しいイメージがありますが、礼拝堂いっぱいに集まった参加者は教派を超えて集まった牧師先生をはじめ信徒の方々と、賛美歌を共に学びあい、賛美歌創作の取り組みや、国内外の新しい賛美歌に触れ、たくさん歌い、諸教会にとって「今、必要とされる賛美のことば」に触れることのできる、大変有意義な研修の場となっています。

「『新生讃美歌』を紹介してください」と声をかけられて以来会員となり参加し、学会では多くを学ばせていただき、またこの間「新生讃美歌」プレゼンテーションや学会紀要などで、「新生讃美歌」を紹介の機会を得、教派を超えた集いの参加者の声を通して、あらためて『新生讃美歌』の特長や課題など気づきが与えられています。

今回は広島での開催ということもあり、テーマは「平和をうたう」でした。新しい賛美歌を紹介した小歌集では、国内外で創作された「平和」と宣教課題を取り上げて歌われる賛美歌が収録され、ほか、韓国での賛美歌の取り組み、フィリピンの平和への叫びの賛美歌、アメリカの新しい賛美歌集「Glory to God」(米長老教会)の曲を実際に歌うなど、次々に起こされている新しい賛美歌に出会うことができました。教派を超えて共有する賛美歌集への期待なども分かちあわれています。

日本賛美歌学会小歌集「未来に向かって〜平和をうたう〜」(800円)、日本賛美歌学会紀要(1000円)が大会にあわせて発行され、特集「賛美歌集とその意義」として「『新生讃美歌2003』の特徴と意義」が取り上げられました。ご希望のかたは、日本賛美歌学会のホームページにアクセスするか、教会音楽室(ehara@bapren.jp)までお問い合わせください。